

## 学校教育委員会報告



# 第2回 学校交流会（準備会）の延期について ～延期に至った状況と発表を予定していた学生の研究テーマの紹介～

河田 直樹\*

Naoki Kawada

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で3月5日に開催予定であった学校交流会（準備会）を8月に延期することになった。これにより、元々8月に予定していた学校交流会は2021年の3月頃に順延となった。年度を跨いでしまったが、準備会として検証することがまだ残っているので、本格的な交流会の開催は約半年遅れということになる。

当学会や他の学会の行事が次々と延期または中止されていく中での決断であったが、開催者の一人として、かなり迷った部分もあった。

当交流会は、学会の活性化に少しでもつながるように、学校委員会委員と学生の交流の場として設けたものであり、学生の卒業研究に関する発表がその中心となっている。

その学生達は、今年の3月で卒業してしまうということもあり、彼らの発表の機会としては、卒業前の最後の機会であったため、ギリギリまで開催するかどうか悩んでいたのが正直なところである。

その後、2月25日に関係者で遠隔会議によって開催について協議し、その場で同意を得て、翌日の26日には参加予定者に延期の連絡を行った。

われわれ教員にとっては、（最短で）8月への延期に関してはスケジュールの再調整で済むということになるが、学生にとっては唯一の機会が失われたことになり、大きな問題である（心の中では負担が軽くなったと喜んでいる学生もいるかもしれないが）。

実際に発表を予定していた学生達は、発表に向けて努力してきたので、完成度は高くないが、この場

を借りて発表を予定したテーマのうち、私に関わった3テーマについてその概要を紹介したい。

### ○スマートモビリティのプラットフォームに関する基礎的研究

1人乗りの歩行困難者用モビリティの最も基本的な部分を抽出し、用途に応じてさまざまな形態への発展性がある基本フレームを設計製作する研究である。人を乗せて移動するとはどういうことかについて深く考え、2～6輪までのさまざまな形態について検討し、最終的に2つのモデルを製作した。研究の入口の部分で基本機能について考えていたが、モビリティの動きを動画で撮影し移動距離と時間をデータ化するなどしていたものの、どのようにして測るかという点で苦労していたようで、最終的には時間の制約もあって、2形態（4輪タイプと8輪タイプ）のモデルを製作して研究をまとめている。

### ○本質安全と生産性を考慮した小型モビリティの研究

前述のプラットフォーム2形態（4輪タイプと6輪タイプ）に、安全性と生産性を考慮して実際に人が乗れるように配慮して、モビリティの製作を実施した研究である。このテーマでは、学生の視点で安全性や生産性に配慮したアイデアを盛り込んで、前述のプラットフォーム2形態に肉付けをした研究テーマである。品質工学とは直接関わりがなさそうであるが、プラットフォームの基本機能をどう考えるかという点で協力しており、少しだけ関わっている。

人が乗れるようにしたモビリティの形態は、4輪

\*埼玉工業大学